経営力向上視察の内容について

事 業 名 ：経営力向上視察
開 催 日 ：2015年10月25日（日），26日（月）
目 的 地 ：北海道富良野市他
参加人数：10名

事業内容・目的

　あらゆる人の利益を求め、5年後も10年後も地域から変わらず必要とされる企業である為には、経営者自身が世の中の動向やニーズをいち早く察知しながら、社会における自社の存在価値を向上させて行かなければなりません。

　今回の視察では、講師例会でお話いただいた倉本聰氏が立ち上げられた富良野自然塾を訪れ、氏が主宰する環境教育プログラムを体験することで講演内容をより深く心に落とし込み、今後業種に限らず課題となるであろう「環境を考えたビジネス」に取り組むためのヒントを得ることを目的とします。そして「企業の社会的責任（CSR）」とは何かを、今一度立ち止まって考えてみます。

環境教育プログラムスタート！

長靴に履き替えて…この頃は晴れていて、まだ皆元気です。

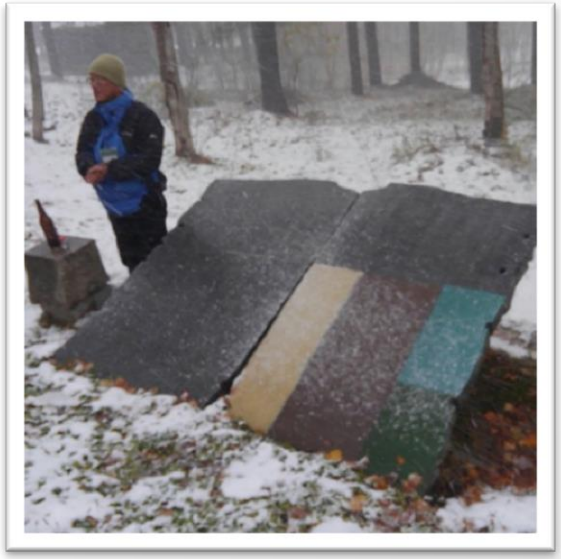
人が生きていく為には…

酸素や水がないと人類は生きていけません。

地球は核、内核、外核、マントル、地層…

地球をこのサイズにすると月までの距離は約30mで、太陽は12km。この絶妙な距離により今の地球があります。

少しずつ吹雪いてきました。



地球を平面にしたもの。グレー（海）、ベージュ（砂漠）、ブラウン（地面）、ブルー（水）、グリーン（植物）

ここから地球誕生から現在まで46億年の歴史を
1m1000万年として、一歩一歩体感して行きます。

誕生からしばらくは高温のマグマの世界です。

磁場が出来、バクテリアにより酸素が発生。

灼熱の世界から、ほぼ全てが凍結した氷の世界へ…2億年続きます。

最初の大陸が産まれ、

またまた氷の世界へ。

- 石に色づけして、地表の変化が分かりやすくなってます。

スーパープルーム（巨大噴火）の発生により海水温度が45℃に上昇、それにより地球全体に巨大竜巻（風速200m以上）が発生。竜巻により海が底から撹拌され、深海にいた生物が海面へ移動 。

地球環境の劇的変化、環境に適応した生物が増え、
その後恐竜の時代へ 。

最近発掘された地球上最大の陸上生物で、大きさは推定全長
40m。その足跡です。

北海道サイズの巨大隕石の衝突により、氷河期へ…
恐竜時代の終焉。

猿から人へ…

そして現在。

人口の推移。現在70億人で2050年には90億人を越える。

植樹体験。

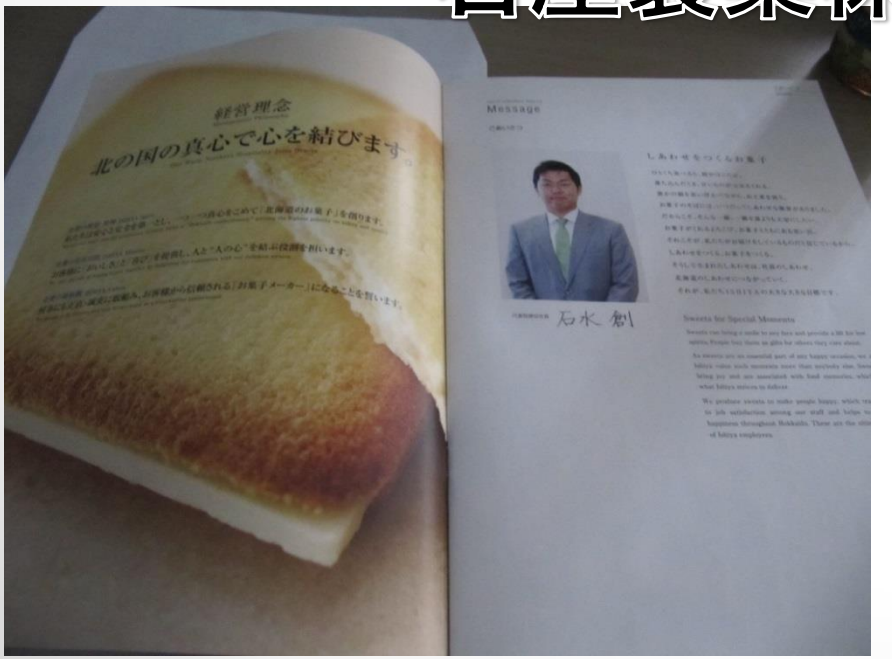
3種類の異なる植物を近くにまとめて植えます。

雪の降る中、寒さに耐え…

この言葉を胸に刻み…

地球は
子孫から
借りている
もの

石屋製菓株式会社訪問


経営理念
北の国の真心で心を結びます。
Message
石水 創

北海道新聞
白い恋人 表示改ざん
賞味期限1カ月延長

「白い恋人」のブランドポジショニング
お菓子は多種な「使い方」がある（対比：「野菜」は、自家消費がほとんど）
お菓子の「使い方」＝「カテゴリー」と考えます
自家用
ギフト
お土産
茶道
知育
「白い恋人」は"お土産菓子"のニッチ・プレミアムな商品

焼き上がったばかりの
ラングドシャーで、チョコレートを
サンドし、余熱で密着させます。
Sandwich
做成夹心酥乾
夾上巧克力，余熱可使它們牢牢地貼在
방금 구워진 쿠키로 초콜릿을 샌드 하여 예열로 밀착시킨

Happy HaLoween
焼き上がったばかりの
ラングドシャーで、チョコレートを
サンドし、余熱で密着させます。

富良野自然塾の視察について

　本年度経営委員会の視察先として、北海道富良野市にある富良野自然塾を視察させていただいた。私達商工会議所青年部として自然の大切さをあらためて考え感じることと、また廃業されたゴルフ場を森に返しながらその活動を自然塾として観光につなげている活動、このことにどのような意義や意味があるのかを問うてみた。

　　企業の競争戦略論の大家でハーバード大学のマイケル・ポーター教授は、2011年に寄稿した論文でCSV（Creating Shared Value）という言葉を用いた。企業は社会と共有すべき価値を創造するべきであるという。この考え方こそが企業としての強みを高めることができ、地域と企業はウィンウィンであることが大切という企業戦略である。

富良野市は廃業したゴルフ場をかかえ観光客の減少や荒廃していく施設の管理などの問題を抱えていた。一方倉本聰は、自身の運営する富良野塾で演劇を学ぶ塾生に対し人を感動させ魂を洗い流すことができる演者となることを教えていた。自身の生活を見つめなおし自然を愛でることで、人間性の熟成を高めることができると考えたのかもしれない。両者の価値が共有され現在の富良野自然塾へと繋がっていく。

経営委員会の宮本委員長は、食文化の発信に努め自分に正直な商品を作り出し、顧客へ安心安全なものを届けたいという思いから、無農薬野菜や自然栽培に関心を持ち富良野自然塾の存在を知り我々を導いた。これも自社の競争戦略である。

このCSVといった競争戦略論は近年に生まれた新しいことではない。例えばCO2削減という地球環境保護の価値と自動車産業のハイブリット車の開発、社会的な基盤が希薄な部分で活躍する様々なNPO法人もそうであろう。金融業界で有名な西部信用金庫は預貸率（預金残高に対する貸出金残高の割合）72.92%で業界トップクラスとなりその貸出先は当然地域の中小企業であり地域で集めたお金を地域に還元している。その中にはNPOやソーシャルビジネスへの貸し出しも多いという。

　自然塾で我々をアテンドしていただいたインストラクターの方はこう言って体験学習を閉じた。

「小さな行動の積み重ねが大きな活動につながる。」

　現在の文明とすべてを切り離して生活を送ることはできない。しかし、我々は地球上に生かされていることを考えることこそが今大切なことである。そして、そこから次の企業戦略に向けて見つめ直してみることも今を生きる青年経済人にとって大切なファクターなのだと。

参加者代表：常任理事　島澤 達也